

(様式1) 平成 21 年度

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2874001619		
法人名	医療法人社団 だいとう循環器クリニック		
事業所名	グループホーム花みずき		
所在地	姫路市豊富町豊富915-2		
自己評価作成日	平成21年12月24日	評価結果市町村受理日	平成22年3月30日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-kouhyou-hyogo.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2874001619&SCD=320
基本情報リンク先 (介護予防)	http://www.kaigo-kouhyou-hyogo.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2874001619&SCD=370

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 兵庫県社会福祉協議会		
所在地	神戸市中央区坂口通2-1-18		
訪問調査日	平成22年1月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

法人の理事長が医師であり利用者のかかりつけ医になっている。看護師、薬剤師も毎週来訪し健康状態を把握している。かかりつけ医には24時間連絡がとれる体制になっており、利用者はもちろん職員も安心して生活をし、支援できている。在籍の長い職員が多く利用者と共に生活をしているという認識を持ち個性豊かな日々を送れるように支援を行っている。地域交流は近隣の方々に救命救急講習に参加して頂いたり、小学校から運動会の招待を受けたり公民館の文化教室から講師や生徒を招き趣味や体操等、様々な講習を受ける事ができている。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

前回の第三者評価結果を参考に地域との付き合いを今以上に大切にすることを目標に掲げ、その一環として公民館活動をしているボランティア講師を招いて、書道や絵手紙等の講習会を月に2回行うようにしている。色々な講習会を実施していく中で、地域住民とのコミュニケーションを図ることが出来ている。また、散歩や外出する機会を多く持ち、近隣の方と日頃の触れ合いが多く持てる機会を作っている。日頃から地域住民にお世話になることが多いので、認知症ケアについての講習を企画し講師派遣を行い、事業所の専門性を地域に還元する企画も検討している。管理者と職員は個別ケアが定着するように日々の支援の中で努力すると共に、職員のチームワークを重視しており、職員間の繋がりを大切にしながら支援を実践している。

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目		取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および第三者評価結果

〔セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。〕

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念に基づき支援している。その理念を認識・共有し取り組んでいる。理念を掲示し、常に確認している。	常に理念の一つである、「高齢者と地域との関わりを大切に地域福祉に貢献します」を意識しながら、地域に向けて認知症について理解してもらえるようにホームから発信している。また、個別ケアを大切に日々の支援を行っている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩時挨拶を交わしたり、花や野菜を頂くこともあります。秋祭りには休憩所として場所を提供し、地域行事への参加、中学校よりトライやるウィークも受け入れている。	地元との付き合いを重視しており、地域の方とは月2回、公民館の文化教室の先生・生徒に来所してもらい、交流を多く持つようしている。また、近隣に住んでいる方から季節の野菜をもらうことも多くある。利用者の各人が自治会員であり、地域の一員として認知されている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーターの講習の場として、提供している。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を行い、話し合い、要望に応じた改善・サービス向上に努めている。	運営推進会議は年に4回開催している。しかし、2009年度はインフルエンザの影響もあり、3回の開催となった。老人会会長をはじめ地域の方も委員として参加しており、活発な意見交換が行われ、会議は活性化している。市職員の代わりに地域包括支援センター職員に参加してもらっている。	より外部の意見を取り入れ、サービスの質の向上につなげていくためにも、運営推進会議を概ね2ヵ月に1回開催することが望まれる。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進委員会に参加して頂いている。	グループホームの運営等についての相談事をはじめ、市の担当者とはいつでも連絡を取れる関係を築いている。特に、制度改正等の情報を受け取れるように依頼している。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について理解し、常に意識し拘束をしないケアを行っている。	3ユニット合同の職員会議の場で、身体拘束・虐待・倫理について話をしており、身体拘束を行わないよう意識を徹底している。居室はもとより出入口は鍵をかけず、戸の開閉が分かるように自然な音色のする鈴を付けている。	

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待について学び、理解し、虐待防止に努めている。	虐待防止や倫理に関する研修会に参加した職員が、ホーム内で伝達研修を行っている。年に1回は、全体会議の中で虐待防止に関する勉強会を実施している。	
8	(7)	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修・勉強会などで学ぶ事がある。利用者の中で成年後見制度を利用されておられる方もいらっしゃる。	管理者が権利擁護に関する外部研修に参加し、ホーム内に伝達研修を行うことにより制度の理解を深めている。現時点で利用者の中に両制度を必要とする方はいない。	現時点では制度を利用する方はいないが、利用する必要が生じた時に備えて、日頃から社会福祉協議会や地域包括支援センター等との連携に取り組んではどうか。
9	(8)	契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を結ぶ際には、管理者が説明し、理解して頂くようにしている。疑問点があればその都度説明している。	契約時には管理者が、家族と利用者の同意の元に説明を行い、納得した上で契約するように十分な説明を行っている。	
10	(9)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常生活の中での会話・様子から気持ちをくみとり、変化に気づくようにし、家族からの意見・苦情などにも速やかに対応し、報告・話し合い・解決に向け努力している。	年に1回開催される家族会で意見を集約している。また、家族が来所する時に意見や要望を聞くようにしている。しかし、現状では意見等は出ていないので、ヒヤリ・ハットの実例を参考にしながら、日常で発生したトラブルを再度起こさないように職員同士で話し合っている。	
11	(10)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議・勉強会・申し送りなど意見を言える機会があり、個別でも年に2回管理者との面接がある。	管理者は年に2回は直接職員と面談をする機会を設けており、職員の意見を聞くようにしている。その際に、利用者との関わりに関する悩みを聞く場合が多く、職員の利用者への真摯な姿勢が窺える。職員から聞いた内容は、運営に活かしている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	学びたい事や意見・希望など聞いてもらえる環境である。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の参加、勉強会では講師を招くこともあり、知識向上を進めている。		

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	実習生の受け入れを行っている。他施設への研修を通じ情報交換している。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15	初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人と面接を行い、思い・要望を可能な限りお聴きし、対応している。家族からの情報も活用し、安心できる関係づくりに努めている。		
16	初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設見学・面接の際などに、思い・要望などお聴きする時間を設けている。		
17	初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の状況を把握し、グループホームでの生活が可能か見極めている。不可能な場合、他のサービス利用を含めた対応をしている。		
18	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常のかかわり・会話から仕来たり・習わしなど色々な事を教えて下さるので学ぶ事が多い。		
19	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月に一度お手紙で状況報告をしている。その他にも面会時に報告し、把握して頂いている。急な変化などがある場合、すぐに連絡し、相談・協力して頂いている。		
20	(11) 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	いつでも気軽に来て頂ける開放的な雰囲気作りを心掛けている。訪問時に、ホールと一緒にお茶や会話を楽しんで頂いている。	2階ホールは誰でも憩える場所として開放しており、利用者の昔から付き合いのある友人に訪問をしてもらったりしている。利用者がホームに来る以前の関係を保つことが出来るように、家族を交えて支援をしている。	馴染みの人や場所との関係が途切れてしまわないよう、利用者が友人や馴染みの場所を訪ねることができるような支援も行ってみたい。

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価		
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
21			利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの性格・好みを把握し、利用者同士が楽しく過ごせるよう支援している。皆さん一緒に行えるようなレクリエーションも行っている。			
22			関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も家族の方から電話や訪問して頂いており、相談や支援に努めている。			
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント							
23	(12)		思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思い・希望・意向を日常生活の中で会話や行動から気づくよう努めている。また、困難な場合、推察し本人が安心できるよう支援する。	言語による意思表示が不得意な利用者や自己表現が難しい利用者には十分に聞き取りを行うと共に、何回も行動を観察することで希望や意向を推察し、利用者の納得がいくように支援している。		
24			これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族の方からのバックグラウンドシートや、日常の利用者との会話から情報を得て共有し、ケアに活かしている。			
25			暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの日常生活の流れの中で、言動・行動・身体状況等を観察し、記録を行い把握している。			
26	(13)		チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスを行い本人の希望・思いをくみとり、家族の希望もお聞きして介護計画を作成している。年2回センター方式を見直し、介護計画作成に活かしている。	月に1回は計画作成担当者がモニタリングを行い、記録に残している。利用者の現状を職員間で把握し、状態や意向に変化があれば現状に即した介護計画へ見直している。また、家族からの要望がある場合も職員会議で協議しながら、必要に応じて介護計画に反映している。		
27			個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の様子・ケア内容・気づきは個別に記録し、職員間で情報の共有、介護計画の見直しを行っている。			

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28	一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況・必要に応じ支援している。		
29	地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防署の協力を得て避難訓練を行い、地元消防団・地域の方にも協力をして頂いている。公民館・地域の方々・ボランティアによる行事や学校行事にも参加している。		
30	(14) かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	法人であるかかりつけ医に情報を常に報告・相談できる体制であり、適切な医療が受けられる。他科受診した場合にはリストを作成し、受診歴が分かるようにしている。	利用者からかかりつけ医の要望があれば、利用できるように支援をしている。また、法人の医師から24時間体制で医療が受けられる体制が出来ており、安心して医療を受けることができる。	
31	看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人であるかかりつけ医より、毎週看護師に来てもらい、相談・指導を受ける事ができ、適切な対応・安心して支援ができています。		
32	(15) 入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、早期退院に向け、医療機関と家族・主治医・管理者が情報交換を行い、その都度話し合いも行うようにしている。	日頃から病院との関わりを持っており、利用者が入院した場合は、管理者や職員が病院を訪問し、病院関係者と情報交換を行い、早期退院に向けた話し合いを行っている。	
33	(16) 重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状況に応じその都度話し合い、安心して暮らしていけるよう支援している。	利用者の状況に応じて、早い時期に家族を交えて話し合いを持つようにしている。利用者が医療的な処置が行なわれていない場合には、ターミナルケアを行ったことがある。	職員の中にはターミナルを経験した者も居るが、対応する機会が少ないことや職員の中に看護師がいないこともあり、ターミナルケア時に必要な情報や支援方法が職員間で共有・周知できるような機会を引き続き設けることが望まれる。
34	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルがあり、全職員が理解するように努めている。消防署協力のもと、救急救命訓練も行っている。		

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(17)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月避難訓練を行っている。全職員が避難方法を理解するよう努めている。地域の方に来所して頂き、施設内、避難経路の説明、協力をお願いをしている。	近隣の方を交えた災害訓練を行っており、夜を想定した訓練も行っている。地元の消防団にもホーム内を見学してもらうなどして、日頃から災害時に協力をしてもらえる関係作りを行っている。	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(18)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々の申し送り、ミーティング、勉強会で話し合い利用者に対し、丁寧に不快に思うような声掛けや対応をしないよう統一している。個人情報への取り扱いは慎重に行っている。	プライバシーを尊重しており、利用者には丁寧な言葉使いをするよう日頃から心がけている。個人情報に係る書類は、職員室のロッカーで保管をしている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	安心出来るような穏やかな声掛けに努め、希望・思いを自由に表現出来るようにし、自己決定ができるよう支援している。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合ではなく、一人ひとりの気持ち・ペースを尊重し、その日を過ごして頂けるよう支援している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしくおしゃれや化粧を楽しまれている。月一回美容師に来て頂き、好みに応じてカットや毛染めをして頂いている。		
40	(19)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みを聞きながら、季節を考慮したメニューを取り入れている。準備・片付けは一人ひとりの能力に応じて行っている。	利用者の希望を聞きながら、献立を各ユニット別々に作っている。利用者は野菜切り等出来ることを手伝っている。また、食後の後片付け・テーブル拭きは利用者自身により自発的に行っている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量は記録している。水分をあまり摂れない方には定期的に提供している。栄養バランスを考えたメニューを作り、身体状況によりきざみ食やとろみをつけている。一人ひとりの体調・活動状況や体重増減に応じて食事量を調整している。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42			口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声掛けのみで行っている人、見守り・介助が必要な人、一人ひとりの状態に応じて支援している。		
43	(20)		排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、適時トイレ誘導を行い、快適に生活して頂けるよう支援している。	各人の排泄パターンを把握しており、事前にトイレ誘導が出来るように心がけている。リハビリパンツから普通のパンツに代えている利用者も居り、自立に向けた支援を行っている。	
44			便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者の便秘状況を把握し、献立の工夫や乳製品の摂取・水分摂取量に注意し、散歩やレクリエーション等で適度な運動も取り入れている。		
45	(21)		入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人ひとりの希望を取り入れ、臨機応変に対応している。毎日入浴されている方もおられる。同性スタッフの介助希望も配慮している。重度の為、二人介助が必要な方は、入浴日を決めてしまっている。	利用者からの希望があれば毎日入浴が出来る。特殊浴槽が無く、介護度の高い方に対しては職員が2名対応する必要があるため、毎日の入浴は行えていない。	入浴回数について利用者の同意は得ているが、今後介護度の高い利用者であっても、本人の希望や必要に応じて入浴回数を増やせるよう引き続き検討してみてもどうか。
46			安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、散歩やレクリエーション等で生活リズムをつけ、夜間には安眠できるようにしている。日中、休息したい時は、自由に居室でゆっくりされている。		
47			服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書や薬剤師との話などで理解している。服薬管理表により確認・誤薬の防止に努めている。		
48			役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器拭き、掃除、洗濯物干し・たたみ等積極的に手伝って下さり、役割を持たれている。散歩・レクリエーションは日課となっており、体を動かす事が好きな方が多く、特に卓球・風船バレーは楽しみの一つとなっている。		

自己	者 第 三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(22)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の希望を聞きながら季節毎に計画を立て、外出できる機会を作っている。家族の方と食事や買い物に出かけられる方もいます。日常的には、散歩へ出かけたり、スタッフと買い物に出かけたりもしている。	天気の良い日の散歩は毎日決まった時間に行っており、利用者の健康管理に努めている。初詣、花見、外食等機会を見つけて、外出する機会を増やしている。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族から個別にお金を預かり、スタッフが管理代行している。利用者の中にはおこずかい程度の金額を所持されている方もおられる。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をしたいと希望された方にはかけて頂いている。家族・友人等からの電話も取り次いでいる。手紙を書かれる方もおられ、スタッフが預かり投函しています。年賀状・クリスマスカードのやりとりもあります。		
52	(23)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の場は庭に咲いている花を生けたり、鉢花を飾ったり、季節感のある作品や写真をはって明るい雰囲気になっている。カーテン・窓の開閉などで陽のまぶしさや室温を調整している。	2階のロビーをはじめ共有空間は広く、テーブルや椅子も置かれており、家族が訪問しても話がしやすい環境作りをしている。また、利用者の部屋の入口には本人の写真が飾られており、部屋間違いの予防になっている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにはテーブル席以外にソファを設けている。廊下にはベンチもあり、気の合った利用者さん同士で談話されたりしている。		
54	(24)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具・椅子など持ち込まれ、居心地の良いスペース作りをして頂いている。家族・両親・友人・飼犬など大切な写真も飾られている。	利用者の使い慣れたものの持ち込みは自由であり、位牌を持ち込んでいる方もいる。家族には利用者の使い慣れたものを持ってきてもらうように依頼をしている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下・トイレ・浴室には手すりを付けてあり、歩行不安定な方でも安全に一人で移動出来る。浴室・浴槽内にはすべり予防マットを使用している。居室入口には表札とご本人の写真をはっており、居室内部には、その方の作品やカレンダー等をはっている。		